

一般社団法人 埼玉私保連



# 広報

No.132

H29. 8月

発行



## おみこし ワッショイ

*Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei*

# 第43回定期総会

場所／埼玉会館

日時／平成29年6月5日(月)



迎えること

第43回定期総会が先日行われました。冒頭で森田会長より課題山積の保育業界であるが、情熱をもってこの課題に取り組

むという挨拶が行われました。御来賓として埼玉県議会議員の皆様をはじめ、埼玉県保育協議会長、埼玉県学童保育連絡協議会事務局長、埼玉県保育問題協議会長をお迎えし、盛大に開催されました。なお現時点の社団社員220名中51人の出席、97筆の委任状提出により、総社員の議決権の過半数を超えたため有効に総会が成立した旨の宣言もありました。



各部の2016年度活動報告及び監事監査報告後の質疑応答で会員より、全国青年会議の活動内容、および災害援助の今後の方針の質問が出され、担当者より丁寧な説明が

なされ、そのあと異議なく了承されました。2017年度事業計画については、各部長から計画案および予算が説明されました。この中で、村山部長より土曜保育の新制度、所長会議の廃止についての話なども出されました。その後、

出席者の異議もなく拍手をもって承認されました。最後に水上副会長より「これからも皆さんと力を合わせて頑張りたい」と挨拶があり、総会は終了しました。

(広報部)



## 総会研修会

場所／埼玉会館

日時／平成29年6月5日(月)

14時～16時45分

テーマ／「保育所保育指針の改定と

そのもつ意味」

講師／大宮 勇雄 氏(福島大学教授)

講師の大宮先生によると、今回改定された指針の5つの基本方向を決めるにあたり、審議が充分つくされたのか、また、どのような議論がなされたのかを明らかにすることは大事であるとのことでした。そして、保育の現場でもなぜそうなったのか理由が分からない中で決まるなど不透明さを持つ改定に関しての問題点を以下のようにお話しされました。

『今回の改定で目につくこと』

・3歳以上児の保育は主として「教育」に  
・保育者側の計画が先にあって、教育を行う時間を意識的に設け、子どもたちを教育することが保育所の教育である。

・保育の歴史や実践の積み上げからの考えは、乳幼児期は言って教えてやらせることが教育ではなく、日々の生活を自ら進んでやるあそびの中に教育があると考えられてきた。

〈保育のねらい及び内容から養護を切り離した〉



・保育の特性は養護と教育が一体とあるのだから、切り離すことはないのではないか。養護は教育より一段低いものとして考えているのではないか。

〈国旗・国歌に親しむ〉

・国旗、国歌は、軍国主義とむすびついたシンボルとなりうる危険がある。戦争を二度と繰り返さないためのこれまでの平和な保育実践。それらをなし崩しにしていくのではないか。

へ「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の新設  
 ・今までの保育計画は地域の実

態をふまえ、子どもの発達にあわせて考えられ、国の理念や保育目標にそって園の責任で作られてきた。しかし、今回の改定では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が保育最終成果としての幼児の姿としている。達成できたかどうかで、子どもも保育者も園も評価されることになるのではないか。

『目の前の姿から私たちが目指す子ども像』

〈学びへの責任感はどうやって育つのか〉

・好きなことがあって、熱中する経験・全力を出す経験をすること（熱中することを育てる）。

・何度やってもあそびは本気を引き出せる。本気になれる子は伸びる

〈自信や意欲はどうやって身につくか〉

・意欲とは、難しいことに挑戦することをおもしろいと思うこと。

・仲間が応援してくれる。かっこ悪い自分も認めてくれるこ

との経験。

・人と人との繋がりを大事にすること。

〈やさしさ、道徳は生活の中で子どもが学んでいくもの〉

・相手に気持ちを伝えたり、相手の気持ちを受けとめたり、生活の中でやりとりで仲間関係が育つ。

・人間としてつながり、喜びをみんなでわかちあっていくこととの経験から社会性やことばを身につけていく。

・友だちとあそぶ中で、何がよくて何がわるいのかを学んでいく。

「憲法を保育に生かしていこう」  
 〈国民の教育を受ける権利 憲法第26条〉

・子どもは学びの権利主体  
 そのため、教育する者は恣意性を排除し、子どもの学ぶ権利を尊重する責任を負っている。同時に私たち（保育者）も自分らしく保育するために学ぶ権利がある。もっともよく子どもの権利を保障できると思われるような形で実践する権利が私たちにある。

〈憲法に基づく保育〉

・不戦の誓いを忘れない。  
 ・「基本的人権なしには」、「平和なしには」、「幸福を追求できる権利なしには」、保育は成り立たない。憲法なしには子どもは守れない。

私たちが保育関係者は、改定された保育指針のもとでも、これまで築きあげた保育を守り、子どもをどう育て、何を大事にしていくのかをしっかりとみつめ、考え、学んでいく必要があると思いました。

文責：研修部 木下



# 新人職員研修会

講師：阿部恵氏

(道灌山学園保育福祉専門学校・保育部長)

## 「乳幼児の心をほぐす 手遊び・パネルシアター」

日時／平成29年5月25日

13時30分～17時

会場／埼玉会館 3C会議室

対象／3年未満保育士



昨年より埼玉私保連の研修会は、研修部と青年会議の役割を分担し、青年会議が保育現場で役立つ研修を担当することになりました。毎年養成校との懇談会で、現場で改めて教えて頂く環境を、人として保育士としての育ちを見守って頂ける環境を用意して下さいといった要望

が出ます。この新人職員研修会は、実践的な内容で行い、同時に社会人としてのマナーも学べる機会となればと考えています。そして昨年も好評だったこの新人職員研修会に今年も多くの若い先生の参加がありました(70名を超える参加者)。阿部先生は大きなトランクを持って登場し、パネルシアター専用の台を設置するといよいよ研修がスタートです。優しい口調で語りかけながら、ゆったりと時たま冗談を交えながら、まずは手遊びの披露から始まりました。参加者のみなさんも始めは少し緊張気味でしたが、乳児が楽しめる簡単な手遊び・遊び歌の内容に、次第に声のトーンも大きくなり、参加型の研修の和やかさもあって、保育室のような雰囲気で行進していきま

した。阿部先生が披露して下さいました。手遊びや歌遊びを若い先生たちはすぐに覚え、仲間同士で楽しんでいました。阿部先生からは、

1. 保育士や友達と楽しく触れあってほしい
2. 遊びながらリズム感や表現力を豊かにしてほしい
3. 期待に胸膨らませて参加し、集中力を育んでほしい
4. コミュニケーションの輪を広

げ、創造・工夫しながら楽しんでほしい  
といったアドバイスがあり、そのため「エアはだめ!!」「ちゃんと子どもに触れて遊んでほしい」と手遊び・歌遊びをする中で大切にしたいことを保育士に向けて話されました。

先生のトランクはまるで宝箱のようで、次から次へとパネルシアターが繰り出されます。様々な年齢に対応し、先生のテクニクも加わり、まさにテーマどおりの「心をほぐす」内容でした。色を使った演目でも子どもの興味をさらに

繋げるために定番の赤・青・黄に緑・ピンク、紫を加え、子どもの満足感を大切に、楽しめる工夫がちりばめられていました。また子ども

の発想と意見を保育士が取り入れることの大切さを語られた時には、子ども理解に寄り添う保育の重要性を改めて認識させられました。

仕事に追われて忙しくとも「手作りのぬくもりを伝える」ことの大切さについて話されました。



今回の阿部先生の講演では、保育士も自ら楽しむことの大切さ、子どもと触れ合いながら常に「ねがい」を持ち保育することが子どもに繋がることが教えて頂いた研修会となりました。

第2部は青年会議が講師となり進めました。みなさんが苦手とすることはなんですか?の質問では多くの方の回答が「コミュニケーション」でした。新人ならではの悩みとも思いましたが、養成校の先生方もこの点を指摘されています。その後、保護者、職員間の関わりに活かすコミュニケーション遊びを行い、これからの社会人、保育士として求められる人物像について考える研修会となりました。当日のアンケートの御協力ありがとうございました。今後も保育現場で役立つ実践研修に取り組んでいきたいと考えておりますのでぜひ多くの方のご参加をお待ちしております。

(青年会議 多田)

# 給食従事者研修会

## 「子どもの

## 食育について学ぼう」

## 各園の食育活動・

## テーマに沿った献立作成」

日時／平成29年6月3日(土)

9時～16時

場所／三郷ひだまり保育園

対象／給食従事者

(栄養士・調理師・調理補助)

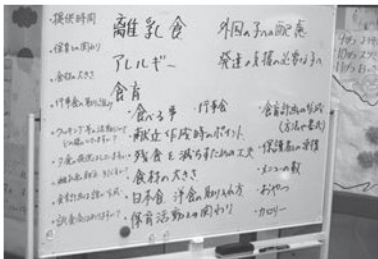
食と保育の繋がりは子どもにとって大変重要です。埼玉私保連では給食従事者を対象に「語る・作る・食べる」3本立ての研修会を行っています。今回で第2回目となる給食従事者研修会にも意欲的な参加者を



迎え開催されました。午前の部は情報交換を中心に、各園の「食育について」の話を行いました。テーマが広いこともあり、

初めのうちは戸惑う姿もありましたが、時間の経過とともにアレルギーや離乳食、食育活動、食育計画といった話題に及び、思う存分給食について語って頂いた時間でした。また会場となった保育園の食育活動、栽培や調理などの事例も発表してもらい、栄養士が絵本の読み聞かせを行う場面も再現されるなど、20名ほどの参加者がほのほのとした雰囲気の中で行われた研修会でした。

「私も絵本を読んでもみたい」と思う栄養士さんもいたようで、作りの栄養士も保育に繋がっていることを更に深く感じたようです。緊張のなか読み聞かせを実践してくれた先生には感謝いたします。昨年のアンケートにも記載されていましたが、各園が保育士との話し合いや交流の機会が少ないことに驚きを感じています。専門職同士の連携の大切さを改めて見直し、他園の取り組みを参考に、自園の工夫に役立てていただけたらと願います。



さて、厨房ではどのような研修が行われたのでしょうか。調理研修を希望されたのは8名の先生方でした。昨年は応募者多数でお断りしたほどでしたが、今年はやや少人数といったところでしたが、みんな意欲満々。各園の主食、主菜、

副菜、デザートまでのフルコースを作り上げました。  
〈コース内容〉  
うさぎのカレー  
（ご飯をうさぎの形にして、可愛く仕上げたもの）  
鮭のみそ焼き（米味噌使用）  
ピーマンと鶏肉の甘酢炒め  
（ピーマン嫌いの克服メニュー）  
高野豆腐の和風サラダ  
（今回のテーマ：「乾物」）  
ブロッコリーのソテー  
（手づかみ食べの促進）  
（手づかみ食べの促進）  
にんじんケーキ（人気メニュー）  
水ようかん（季節もの）

午後の研修では、今回のテーマである「乾物」を使った献立をグループに分かれて作成しました。「乾物」はよく利用される定番でもありますが、献立作成するうえでパターン化してしまいがちです。そこで「みんなの知恵と発想で問題解決へ」と提起し進めました。



毎年テーマを設定して取り組んでいる献立作成ですが、大きな模造紙にグループで提案した献立を記入し、気になるメニューの調理方法を聞いたりしながら献立の幅を広げるようにしています。給食従事者向けの研修が少なく、青年会議と

してもこの研修会は大切にしたと考えています。土曜の一日を使った研修に参加されたみなさんありがとうございました。今後も食を通しての保育の質向上に繋がる研修会計画を立てていきたいと思えます。

参加者のアンケートより、このような給食向けの研修会が無いので継続的に実施してほしい。

保育士との関わりも持てるのとでも有意義な時間になっている。

「語る・作る・食べる」研修会は他にない。調理実習も役に立つ。

絵本読みをしてみたいと思った。情報交換の時間があるのととても役立つ。他

# 処遇改善等加算Ⅰ及びⅡの 取扱いについての研修会

日時／平成29年7月4日(火)

14時～16時

会場／埼玉会館 7B会議室

講師／望月 昌幸氏

ホザナ保育園園長

(公社) 全国私立保育園連盟

保育単価検討委員会委員

(一社) 埼玉県私立保育園連盟

組織・事業部長



上記の研修会を開催したところ、当初予定を大幅に上回る136名の参加者で会場は満席になりました。このことから私立保育園関係者が今回の処遇改善加算方式、特に改善加算Ⅱ(キャリアアップ導入)に戸惑いや疑問を感じていることがわかります。参加者からは、開催されたタイムニング、また仕組みや具体的対応策について聞くことができた等、大変好評な声が多く寄せられました。尚この研修会の資料を私保連ホームページより一部見ることができます。

(広報部)

## 編集後記

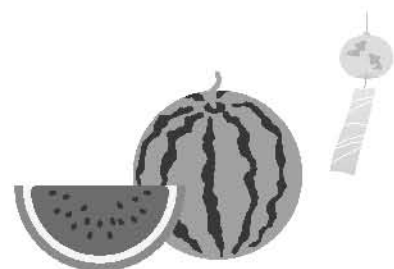
～「夏」をお題に～

### 夏の記憶

夏になると、風呂上り浴衣姿で縁側に座り、うちわを片手に涼んでいる父の姿を思い出します。父は盆栽が好きで一通り庭の植栽に水をやり終えると、縁側に胡坐をかき、片膝に肘を乗せ、頬杖をつく独特のポーズにくわえ煙草、そうして目を細めながら自慢の盆栽を眺めていました。小さかった私は浴衣を着せられ、父の膝にチョコンと座り、ご機嫌で庭先の田んぼを渡ってくる涼風に吹かれていたものです。夕焼け、だんだん薄暮色へ変わってゆく空、遠雷、蟬の声、台所から夕餉の支度をする音や匂い、すべてが懐かしく思い出されます。

今年の夏は朝からエアコン全開の日々。猛暑日が続き、梅雨の戻り、天候不順…。最近、夕涼みができなくなりました。そんなこともあり、ノスタルジーな気分になってしまう夏の夕暮れです。

(T.M)



## 「夏」たくさん汗をかきましょう

私達は普段の生活で何気なく水と接しています。しかし、多くの物質の中で水ほど特殊で重要なものではなく、特に他の物質を溶かす作用がとて強いこと及び温度的に極めて安定であることに特徴があります。人間の体組織はこれをとて合理的に利用しています。人間の体の約60～70%は水分で、血液や細胞の間に入っている体液として蓄えられています。その大きな役割の一つが「毒素、老廃物の排出」で、体の中の不要な物質を尿や汗として体外に出します。もう一つは「体温の調整」で、上がりすぎた体温を下げるために汗をかいて、皮膚から熱を奪って体を冷やします。溶媒としては体内の老廃物を除去し、冷媒としては体温を調整しています。従って運動して発汗作用を促すことは、身体を健康に維持するために大切なことなのです。

汗をかくのは良いことだとわかっていても、汗をかくと不潔な感じを与えたり、臭いが気になるのも確かです。しかし、汗をかくことで体内の新陳代謝を活発にし、血液汚染物質（ナトリウム塩・乳酸）などを排泄することができると考えれば、暑い時や運動した時に汗をかくことも、あまり気にしなくてもすむのでは。熱い季節でもエアコンに頼らず、運動をして積極的に汗をかくようにしたいものです。

(M.K)



## 夏と言えば、打ち上げ花火!

人混みが苦手なこともあり、地元の花火大会は、もっぱら自宅の庭先に縁台を出し、遠くの打ち上げ花火を見るのが常でした。夜空に咲く大輪に見とれていると、暫くして「ド〜ン」と音が追いかけてきます。こののんびりさも「遠くから見る派」にはたまりません。

しかし先日、愛する(?)主人と露店で賑わう河川敷へ出かけ、この花火を間近で見る機会がありました。右手に冷やしキュウリ、左手に缶ビール、打ち上げの爆音とともに頭の上に降る花火。河川敷に座り込み、時には寝転んで見る花火。これはこれでいいかも!「近くで見る派」の気持ちに「ド〜ン」と近づきました。「遠くから見る」か「近くで見る」か、あなたはどっち派?

(S.H)



## 日本の夏 緊張の夏

学校に通う生徒さんは、夏休み真最中で楽しい時を過ごしていることでしょう。自分が子どもの頃を思い返しても、夏は(特に夏休みは)、開放的で楽しみがたくさんあり、自然とうきうきしたものです。夏は子どもたちにとて特別な季節です。

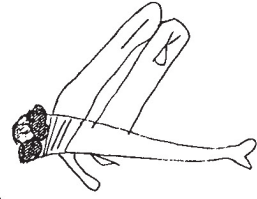
ただ昔と違い、最近の自然環境の変化は、われわれの予想を上回り、猛威をふるう自然が各地で災害や事故を引き起こしています。異常気象を前にしての誤った行動は命を落としかねません。自然のちょっとした変化にも気を遣い、緊張感を持って子どもを守るのは大人の役目です。そういった意味でわれわれ大人は、まさしく日本の夏!緊張の夏!をむかえていると言えるでしょう(この文章と蚊取り線香の会社とはまったく関係ありません。念のため)。…といった注意を払い、ぜひ楽しい夏を過ごしていただきたいと思います。

(S.K)



事務局 (一社)埼玉県私立保育園連盟  
〒363-0015 桶川市南2-7-13 桶川中央マンション2F  
TEL 048(772)8623  
FAX 048(772)8635





## 保育園および園児を さまざまなリスクからサポートします

保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。  
 (公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、  
 保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する  
 各種保険を取り扱っております。

### 全私保連 保険制度

「保育園賠償責任保険」「保育園児団体傷害  
 保険」「特別保育事業賠償責任保険」など、  
 保育園経営に必要な不可欠な保険をラインナップ  
 しています。また、それらを総合的に補償する  
 セットプランもご用意しております。

### 園児総合保障 共済制度

保育園児を24時間補償する共済制度です。  
 保護者にとっては  
 一般に比べてお得な掛金で  
 高額の補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」や「園舎の火災保険」などの、  
 保険を取り扱っております。  
 ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

## 有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内  
 TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

